

## 資料 2

# 第8期プランにおける 認定者の推計について

柏市高齢者支援課

# 1 第8期介護保険料の推計にあたって

【介護保険料の計算方法】

$$\text{介護保険料} = \left( \text{総給付費} - \text{国, 県, 市, 支払基金の負担額} - \text{基金からの取り崩し額} \right) \div \text{被保険者数}$$

介護保険料を推計するうえで、一番重要なのは  
**総給付費を推計**することです

## 【総給付費の計算方法】

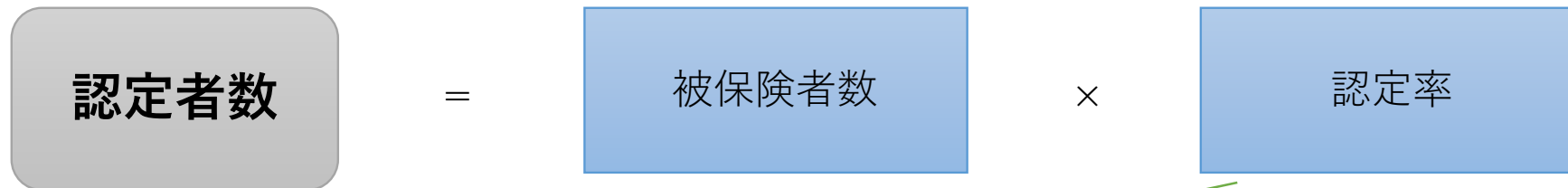
$$\text{総給付費} = \text{認定者数} \times \text{利用者の割合} \times \text{利用者1人1月あたり給付費}$$

総給付費を推計するうえで、一番重要なのは  
**認定者数を推計**することです

一つ一つのサービスごとに推計した給付費を積み上げて、総給付費を算出します。

## 2 認定者数の推計について

### 【認定者数の計算方法】



認定者数の推計には、**認定率の推計**が重要です。

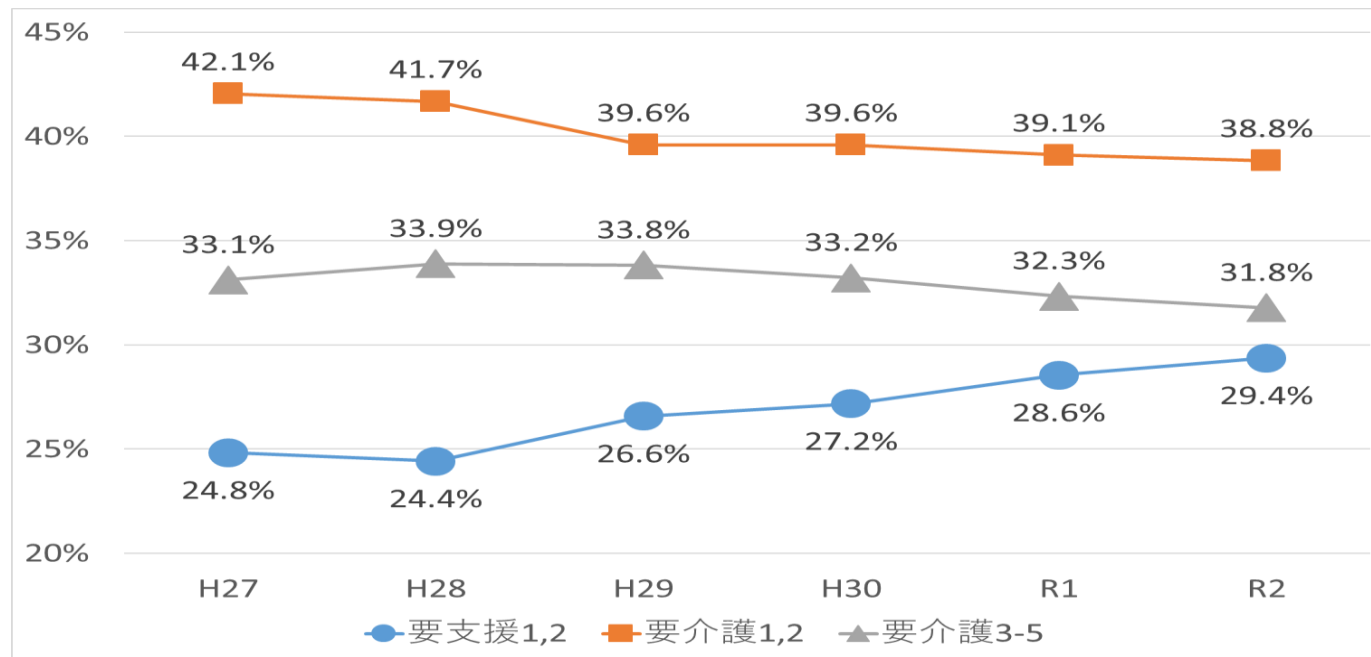
認定率は、「男女別」、「5歳別」、「介護度別」に細かく分けて推計します。

※例：男性・75歳～79歳の方は○%が要介護2  
女性・80歳～84歳の方は△%が要介護4

# 3 認定者の実績値について

	H27	H28	H29	H30	R1	R2
認定者数	14,385人	15,013人	16,075人	16,799人	17,557人	18,101人
前年比	—	104.4%	107.1%	104.5%	104.5%	103.1%

【介護度別の割合の推移】



認定者は毎年105%前後の割合で増加していますが、要支援者の割合が増加しています（軽度化の傾向がみられます）。

## 4 認定者の推計の考え方について

実績値を踏まえて、次の3つを比較しました。（資料2－1参照）

- ① **定率型**  
～令和2年度の認定率が第8期も続く推計～
- ② **軽度化継続型**  
～平成29年度から令和2年度にかけての認定率の変化の傾向（軽度化）が続く推計～
- ③ **バランス型**  
～平成29年度から令和2年度にかけての認定率の変化の傾向（軽度化）を抑えた推計～

① 定率型  
 ～令和2年度の認定率が第8期も続く推計～

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
<b>認定者の合計</b>	<b>18,101人</b>	<b>18,939人</b>	<b>19,890人</b>	<b>20,767人</b>
要支援 1 - 2	5,317人	5,555人	5,830人	6,097人
要介護 1 - 2	7,031人	7,349人	7,708人	8,039人
要介護 3 - 5	5,753人	6,035人	6,352人	6,631人

【認定者の合計に対する割合】

要支援 1 - 2	29.4%	29.3%	29.3%	29.4%
要介護 1 - 2	38.8%	38.8%	38.8%	38.7%
要介護 3 - 5	31.8%	31.9%	31.9%	31.9%

【第1号被保険者に占める認定者の割合】

第1号認定率	16.0%	16.6%	17.4%	18.1%
--------	-------	-------	-------	-------

※数値は試算値であり、今後変更する可能性があります。

## ① 定率型 ～令和2年度の認定率が第8期も続く推計～

- 特徴

認定者数は3つのパターンで最も多くなります。

軽度化は進まず、中重度者の割合が高くなります。

保険料が3つのパターンで最も高くなります。

- メリット

新型コロナウイルスの影響が未知数であるなか、保険料が不足する事態を避けやすい推計です。

- デメリット

近年の軽度化の流れを汲んでおらず、保険料が過剰になる可能性があります。



## ② 軽度化継続型

～平成29年度から令和2年度にかけての認定率の変化の傾向（軽度化）が続く推計～

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
認定者の合計	18,101人	18,840人	19,720人	20,554人
要支援1－2	5,317人	5,711人	6,182人	6,676人
要介護1－2	7,031人	7,260人	7,533人	7,774人
要介護3－5	5,753人	5,869人	6,005人	6,104人

### 【認定者の合計に対する割合】

要支援1－2	29.4%	30.3%	31.3%	32.5%
要介護1－2	38.8%	38.5%	38.2%	37.8%
要介護3－5	31.8%	31.2%	30.5%	29.7%

### 【第1号被保険者に占める認定者の割合】

第1号認定率	16.0%	16.5%	17.2%	17.8%
--------	-------	-------	-------	-------

※数値は試算値であり、今後変更する可能性があります。

## ② 軽度化継続型 ～平成29年度から令和2年度にかけての認定率の変化の傾向（軽度化）が続く推計～

### ・特徴

認定者数は3つのパターンで最も少なくなります。

軽度化が進み，要支援者の割合が令和3年度から30%を超えます。

保険料が3つのパターンで最も低くなります。

### ・メリット

近年の軽度化の傾向を反映しています。軽度化の傾向が第8期中も続く場合は，妥当な推計となります。

### ・デメリット

軽度化の傾向が鈍化する等，傾向に変化があった場合には保険料が不足する可能性があります。

③ バランス型  
 ～平成29年度から令和2年度にかけての認定率の変化の傾向（軽  
 度化）を抑えた推計～

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
認定者の合計	18,101人	18,894人	19,790人	20,630人
要支援1－2	5,317人	5,635人	6,002人	6,373人
要介護1－2	7,031人	7,307人	7,617人	7,899人
要介護3－5	5,753人	5,952人	6,171人	6,358人

【認定者の合計に対する割合】

要支援1－2	29.4%	29.8%	30.3%	30.9%
要介護1－2	38.8%	38.7%	38.5%	38.3%
要介護3－5	31.8%	31.5%	31.2%	30.8%

【第1号被保険者に占める認定者の割合】

第1号認定率	16.0%	16.6%	17.3%	17.9%
--------	-------	-------	-------	-------

※数値は試算値であり、今後変更する可能性があります。

### ③ バランス型

～平成29年度から令和2年度にかけての認定率の変化の傾向（軽度化）を抑えた推計～

#### ・特徴

認定者数や軽度化の進行，保険料等，3つのパターンの中で2番目になります。

#### ・メリット

近年の軽度化の傾向を反映しています。また，新型コロナウイルス等による軽度化への影響があった場合でも，保険料の不足に直結しないバランスのとれた推計です。

#### ・デメリット

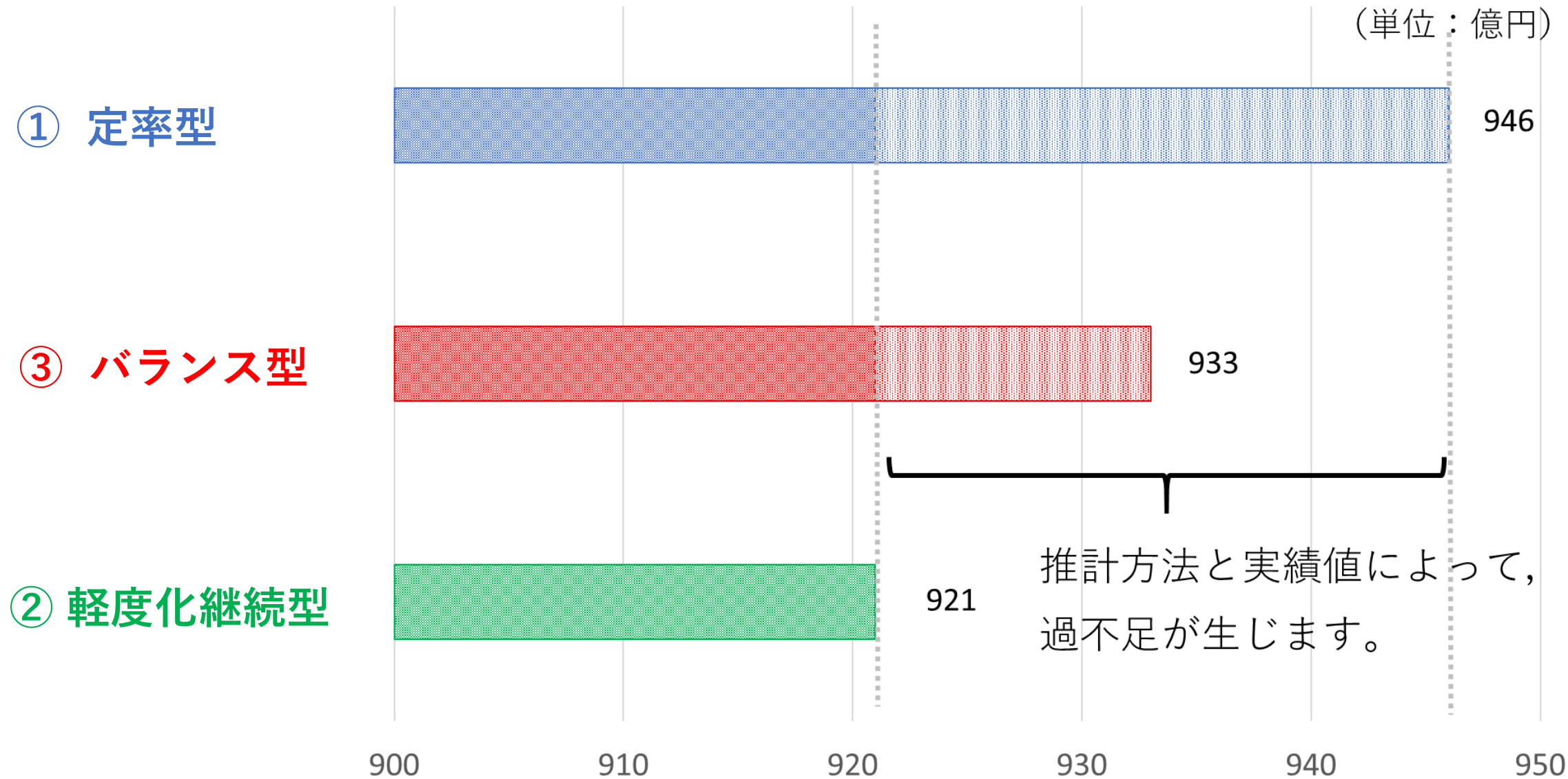
軽度化の傾向が変わらず続いた場合は，保険料が過剰になる可能性があります。

## 5 推計方法が介護給付費に及ぼす影響の試算

### 【留意事項】

- 事業費の規模感を認定者の推計方法別に比較をするためのもので、非常に粗い試算です。
- 詳細な介護保険料の計算は別途進めていますが、下表の金額がその計算の基準となるものではありません。

	総給付費	②を基準とした差額(ア)	アを保険料に換算
① 定率型	約946億円	約25億円	約170円
② 軽度化継続型	約921億円	—	—
③ バランス型	約933億円	約12億円	約80円



## 6 認定者の推計の方針について（案）

- 採用を検討しているパターン

### ③ バランス型

- 理由

- 実績値から明確な軽度化の傾向がみられる
- 新型コロナウイルス等による影響（認定者の増加や重度化等）が未知

数

⇒軽度化の傾向が続くことと、新型コロナウイルスの影響の両方を見据えた認定者（≡介護保険料）の推計が必要であると考えます